

除痘館記念資料室だより

緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室 第17号

OGATA KOAN MEMORIAL FOUNDATION, THE ARCHIVES OF SMALLPOX VACCINATION HOUSE, OSAKA. NEWSLETTER, NO. 17.



尼崎町「除痘館跡」銘板

緒方洪庵記念財団(旧・洪庵記念会)が財団法人の組織を整えてから、今年で70周年を迎える。このため、本紙第17号では、これを記念すべき意味で、これに関連する内容を織り込んでいる。

- ・「除痘館記念資料室」誕生への道
—財団創設70周年に寄せて—
..... 緒方 高志
- ・「除痘館記念資料室」15年の軌跡
..... 古西 義麿
- ・船場の種痘医・森川元道
..... 浅井 允晶
- ・明石藩の種痘医・松浦元瑠
..... 古西 義麿
- ・財団の創設者・緒方正清の生涯
..... 川上 潤

「除痘館記念資料室」誕生への道 —財団創設70周年に寄せて—

緒方洪庵記念財団・理事長 緒方 高志

旧・洪庵記念会(現、緒方洪庵記念財団)が昭和29年(1954)に財団組織を整え、現在の一般財団法人・緒方洪庵記念財団に引き継がれてから、今年で70周年を迎える。

現在、財団の除痘館記念資料室のある緒方ビルの敷地は、私の先祖である緒方洪庵が開設し、それを継いだ洪庵の四女・八千代の夫、緒方拙斎が名代として運営していた「除痘館」の跡地に当たる。明治になってからも「尼ヶ崎町壱丁目(今橋三丁目)種痘所」の名前で活動した天然痘予防の拠点であった。

「種痘所」の後は拙斎らの居宅となり、また洪庵夫人・八重の隠居所ともなっていた。明治35年(1902)に拙斎の婿養子の正清が、この跡に産婦人科専門の緒方婦人科病院を設立、その後を継いだ緒方祐将が、昭和初期としては珍しい鉄筋コンクリート造りの近代建築の緒方病院を建築して、話題を集めた。

第二次世界大戦後も緒方洪庵の精神を継承し、洪庵や曾祖父の緒方正清が培ってきた奉仕の医療を実践するため財団を設立し、併せて病院に施療の助産所や、助産婦育成のための教育施設(緒方産科看護学院)を併設した。

こうしたことから、この場所に洪庵や除痘館活動に関わる資料を収集、研究する機構の開設を考えたのが、祐将の跡を継いだ緒方正美である。その第一歩は、医学史上の史跡を明示する「緒方洪庵」と「除痘館跡」のブロンズの銘板を作成し、入口に掲げたことに始まった。次いで、昭和58年(1983)の日本医学会総会の大阪開催時には、その3年前のWHO(世界保健機関)による「世界天然痘根絶宣言」を記念した特別展に協賛、この病院でそれに関する資料展を開催して『大阪の除痘館』を刊行し、積極的な姿勢を示してきた。

こうした中で財団は、施設の近代化をはか

るため、昭和61年(1986)に老朽化した病院の建物を7階建てのビルに建て替え、平成19年(2007)には日本医学会総会の大阪開催時に、この緒方ビルの4階に「除痘館記念資料室」を開設、洪庵以来の除痘館活動の諸相を理解していただくため、一般に公開してきた。平成22年(2010)から財団の機関紙として『除痘館記念資料室だより』を刊行してきたのは、その間の軌跡を物語っている。

もとより、これまでの運営は多くの方々のご理解とご協力で成り立っている。お力添えをいただいた専門委員を含めた各位に厚く御礼申し上げる次第である。

財団創設の昭和29年(1954)は、奇しくも私の生まれた年と合致する。私自身古稀を迎えることから、財団や除痘館記念資料室の今後の在り方に思いをいたし、次代への継承を含めた課題に取り組みたいと考えている。

大阪の「除痘館」は、幕末に導入されたエドワード・ジェンナー開発の牛痘種痘法を用いて牛痘苗(ワクチン)接種により天然痘(痘瘡)禍から人々を救った緒方洪庵を核とする医師たちの活動拠点。種痘所とも称する。

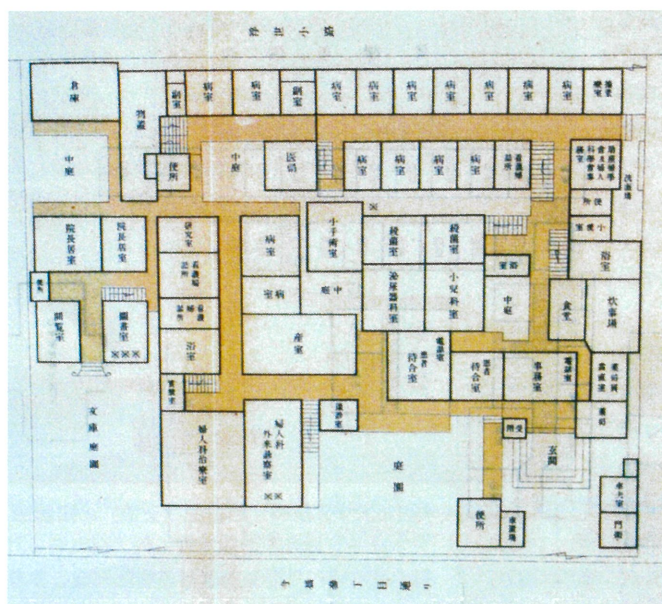


図2 再渡欧後の病院改修時の病院図面(1階部分)

療機器を購入することであった。オーストリアでは、手術の内容や患者の体格によって高さや角度を調整できる最新鋭の手術台(四肢の固定個所の角度調整など手術の際の合理性を備えており、現在の換算価格で約7百万円)を購入した。これについては記録写真も残り、のち大いに活用されている。また、欧州での産婦人科系の手術の見学を通して、恩師ヘガール開発の医療機器(今に残るヘガール持針器、ヘガール鉗子など)を購入するなど、帰国後緒方婦人科病院で行なう新施術法や最新機器の導入を精力的に進めていた。こうして、正清運営の緒方婦人科病院は先進的な病院としての評価を得、全国各地から医師や医学生が集まる学び舎とも化していった。ここで学んだ医師の中には、関西の女医の草分けといわれる福井繁子ら多くの医師がいる。正清の医学教育に対する姿勢を示すものであろう。

一方、正清は研究活動や学会活動にも精力を注いだ。著作も多く、冒頭に記した大著『日

本産科学史』をはじめ、翻訳を含めた著作も多い。殊に、他界した二日前に発行された『日本産科学史』は1810頁からなる遺作となったものであったが、当時の価格が「金貳拾圓」(現在換算価格・約7万円)という高額であったにも拘わらず、好評を博し、予想以上に売れたためか、翌年3月には再版している。

また、近代的な助産婦教育を推進し、緒方助産婦学会を立ち上げて月刊『助産之葉』を

理論的にも技術的にも進んでいた西洋医学、特に産婦人科学の日本への導入について先駆的役割を果たした存在であり、そのパイプ役となっていたのであった。

著書・訳書には『日本産科学史』のほか、『浴療新論』、『産科図解』、『社会的色慾論(ヘガール著)』、『婦人科臨床軌範』、『助産婦学』、『婦人の家庭衛生』、『婦人科手術学』、『日本欲療史』、『婦人科雑纂』、『再遊記』、『硬性放射線学』、『富山縣奇病論』、『初生児発啼術』、『産褥婦と初生児の看護法』などがある。

また、その間、大阪私立衛生会副会長、内務省産婆術開業試験委員、大阪慈恵病院医学校長、大阪市議員、大阪市医師会長、助産婦教育所長、日本婦人科学会会長、大阪市産婆会会長、大阪府医師会会長などを歴任している。

56年間の短い人生の中で、医療現場でも医療教育現場でもあまりにも多くの成果を残した緒方正清については、正清没後100年を超え、緒方洪庵記念財団(旧・洪庵記念会)が設立70周年を迎えるにあたり、私自身、改めてその功績を再認識する機会となった。

(緒方洪庵記念財団、事務長)



緒方正清時代の緒方婦人科病院

除痘館記念資料室 ご利用の手引き

- ◆利用時間 午前10時～午後4時(土曜日の利用は午前中のみ)
- ◆休日 日曜日・祝祭日・年末年始(臨時の休日あり)
- ◆参観料 無料 ◆所在地 緒方ビル 4階

発行：緒方洪庵記念財団、除痘館記念資料室

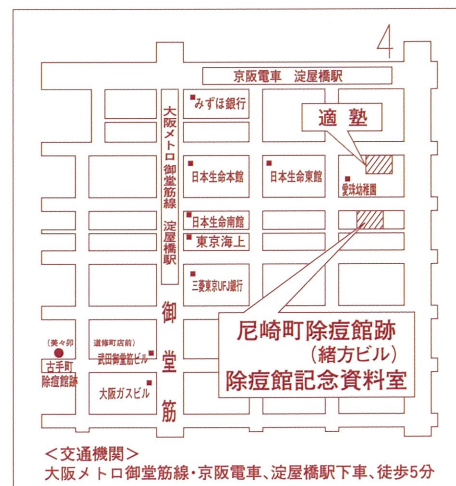
『除痘館記念資料室だより』第17号 NEWSLETTER, NO. 17.

OGATA KOAN MEMORIAL FOUNDATION,

THE ARCHIVES OF SMALLPOX VACCINATION HOUSE, OSAKA.

〒541-0042 大阪市中央区今橋3丁目2-17. 緒方ビル

TEL(直通) 06-6231-3257. FAX. 06-6231-3256.



<交通機関>
大阪メトロ御堂筋線・京阪電車、淀屋橋駅下車、徒歩5分